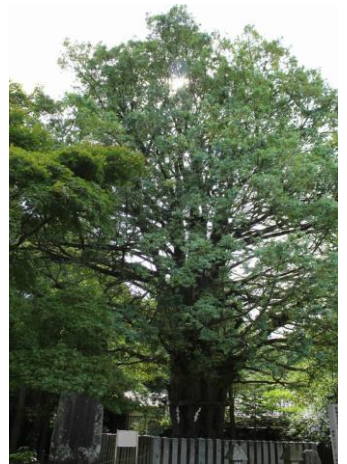


ご参考・椰の木（なぎのき）物語

■熊野速玉大社 神木 椰の木（なぎのき）



神木 椰の木（ナギの木）

椰の木は遠く中国の海南島や台湾等に自生するが、太古黒潮ラインに乗り本邦南紀四国九州島の温暖な地方に定着したイチヤクシ科の雌雄異株の常緑の高木です。
椰の木は伊豆半島が北限であると伝えられ、当神社の椰の故郷伊豆山神社には「此の木は他国に稀なり」と記して有り、東京の北辺当神社で育つとは、と感激して居ります（地球温暖化のためか）。

椰の木は古代より神社の境内に植えられて居り、奈良春日神社には平安期900年頃の巨木有り、伊豆山神社には今を去る1,400余年の昔、山岳信仰の道開きとも仰がれる役の行者（小角）が神木椰の樹上に大神の御影を拝して

なぎの葉は千代に三千代を重ねつつ夫婦妹背の道はかはらず

と歌われた誌が有ります。

鎌倉の尼将軍と名をはせた北条政子が若き日に伊豆山に配流されていた源頼朝と椰の木の下で愛を誓って結ばれたロマンが良縁が結ばれる縁結びの神木とされます。後に、1192年源頼朝鎌倉に幕府を開く。

他にも椰の木の文献が数多くありますが、当熊野神社の本宮 紀州熊野神社那智の大社には平重盛が植えたといわれる樹齢1,000年の椰の巨木有り。

千古の昔より信仰熱く当神社にも「縁結び」の神々が坐します椰の木との関わり深く神木として大切に生育したいと思えます。

平成13年11月 熊野神社 案内板より

熊野牛玉宝印と神木ナギについて

熊野牛王（くまのごおう）は熊野権現にゆかりある鳥を絵文字化した護符で、戦国時代からその形を変えることなく伝わります。熊野速玉大社の牛王は、四十八の鳥文字で描かれているところから、よとやの神咒（かじり）とも言い、速玉大神の衆生を救わんとする願いが一羽一羽の鳥に込められていると謂われています。また、境内にそびえる樹齢千年のナギの大樹は熊野権現の象徴として信奉篤く、古来から道中安全を祈り、この葉を懐中に納めてお参りすることが習わしとなっています。この熊野牛王とナギの葉をいただくことが、難行熊野詣を無事果たす大きな支えとなったのです。

千早ふる 熊野の宮のなぎの葉を 変わらぬ千代のためしにぞ折る 藤原定家

■伊豆山神社、境内の榎の木、

熱海市伊豆山にある伊豆山神社も頼朝・政子の逢引きの場所として伝えられ、願成就院と同様に榎の木がある。榎の木の傍らの立て札にはおよそ次のようなことが記されている。

霊符 榎の葉守り由来

伊豆山神社は古来縁結びの神として名高く、役の行者が1400年の昔この伊豆権現に参詣の際、神木榎の樹上に大神の御影を拝し

なぎの葉は千代に三千代を重ねつつ 夫婦妹背の道はかわらず

と歌われたと伝える。

江戸中期に出版の「本朝俗諺志」に、伊豆権現の神木榎の木凡そ三回り、高さ十丈ばかり、葉厚く縦に筋あり。この葉を所持すれば災難をのがれると守り袋に納む。また女人鏡に敷けばすなわち夫婦の仲むつまじきなり。この木他国に稀なり。と記される。

また徳川時代の小唄集にも

こんどござらば持てきてたもれ 伊豆のお山のなぎの葉を

の歌詞を載せている。

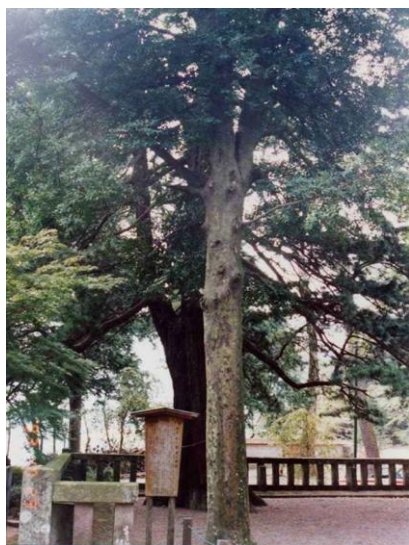
源頼朝公も若き日に当社に源家再興を祈願し夫人政子との変わらぬ愛の証しに神木なぎの葉をお互いの胸に分ち持ったという。

伊豆山神社の境内にはまた頼朝政子腰掛け石という二人掛けの安楽椅子によく似た岩がある。二人はここに腰掛けて将来のことを話しあったことであろう。

山岡荘八の「源頼朝」によると、頼朝は蛭が小島に滞在中ひそかにこの伊豆権現に参籠すると見せかけ、覚淵阿闍梨から学問を教わり、箱根権現で武芸を磨いたという。政子の父時政は一応頼朝との結婚に反対して伊豆の目代山木判官に政子と嫁がせることに決めたが、その婚礼の夜政子は逃れ出て葦山から駆けつけた頼朝に身を任せる。かくして政子は頼朝の正妻となり、二人の間には大姫とよばれる長女も誕生した。

頼朝政子腰掛け石 熱海市 伊豆山神社

境内の榎の木 伊豆山神社 (平5.10)



伊豆山神社 熱海市 (平5.10)



源頼朝と北条政子の忍び逢いの地

—伊豆山神社—

源頼朝と恋人であった北条政子が、ひそかに忍び逢いをしたという伊豆山神社。
二人の恋愛の地を尋ねてみましょう。



■春日大社のナギ

■天然記念物竹柏(なぎ)の純林

灯籠籠の奥の森には、殆どが竹柏(なぎ)の木だけという純林が多く見られ、極めて稀であるとして大正12年に天然記念物に指定されました。御間道の中程には、その特色が分かる場所として、天然記念物ナギ樹林の立て札が立っています。竹柏は暖かいところに自生する木ですから、春日大社にあるものは、古くに献木されたものが、鹿も食べないところから繁茂して樹林を形成したのだと考えられています。鎌倉時代には、すでに繁茂していたことが記録から類推され、実際樹齢が850年と考えられる木も確認されています。春日社では古くから榊の代わりに神事に用いられた神聖な木でもあります。



(マキ科の常緑喬木)

なぎの木は、古来より幸運をもたらす縁起の木ともいわれ春日大社では古くから榊の代わりに神事に用いられた神聖な木でもあります
これは、氏神様の 春日神社の榊の木

